

富士塚の諸相

中島義一*

On the Fujizuka Mound

NAKAJIMA Giichi

富士塚とは身近の信仰対象として富士講の人達が作った塚である。民俗学、宗教学等の側からの研究は多数あるが地理学の側からの論考は少ない。他の諸学においては成立期や盛時の状況に重点があり、地域差についての配慮は少ない。本稿は103ヶ所の富士塚を実地調査しての見聞にもとづくものであるが現況と近年の変容、それに地域差に着目した。

江戸（東京）にはじまる富士信仰・富士講が周辺に波及して行ったものであり、隣県の分布は江戸（東京）寄りが多く、富士山より取り寄せた溶岩も23区以外では省略される所があり、山頂の浅間社も石碑で小祠に代用される所もある。一方都内では存在しない初山という行事が、埼玉県を中心に成立し、富士講の衰微という一般の状況の中に初山のために盛況を呈する所もある。

富士講の現存するのは調査事例中37.5%になっているが富士塚と講碑はその多くが現存する。その理由についても検討した。富士信仰以外の信仰が附加された事例や、少数ながら富士塚上の小祠を富士山に向けた事例があることも述べた。富士山に模した合目標石や噴火口に模した穴、富士五湖に模して作った池等につき事例をあげて論述した。

キーワード：富士塚、富士信仰、富士講、講碑、富士溶岩

Keywords: Fujizuka Mound, Belief of Mount Fuji, Fuji-ko, Tombstone of Fujiko, Lava of Mount Fuji

I. はじめに

富士塚とは富士山登拜が容易でなかった頃、手近の信仰対象として富士講の人が富士山に模して作った塚である。

富士信仰・富士講については民俗学・宗教学の方面から多くの研究成果があり、富士塚もその一環として研究されている。成立期あるいは盛時の状態の復原的研究が主流で、対象は江戸（東京）の事例が多い。富士信仰研究会という学会があり、「富士信仰研究」という雑誌を出している。この方面の論考は多数につき参考文献として列挙することは略させて頂く。

地理学の側では三浦家吉¹⁾と川合泰代^{2), 3)}の論考がある。現在の状況や近年の変容にも着目している。対象地域は都内が主で近県の事例もあげられている。

近年は国あるいは地方自治体から文化財指定を受けるものもあり⁴⁾、教育委員会が調査報告書を出した所もある⁵⁾。展示の対象にしている博物館もあり、文京ふるさと歴史館が出した特別展図録「江戸の新興宗教、文京の富士講⁶⁾」は好資料である。

筆者は対象地域を関東各県に広げ、つとめて多くの富士塚を訪れ、実地の観察と関係者からの聞きと

*駒澤大学名誉教授

りにつとめた。また現状と近年の変容に重点をおいた。まだ未知、未訪の富士塚も少なくない⁷⁾がともかく現在までに得られた知見を整理して本稿を草した。既訪の富士塚を表1～4に示す(103ヶ所)。

地理学サロン例会(於、駒沢大学、2002.11.20)で概要を報告しているがその際は市神と合わせての報告であり、市神については別稿^{8), 9)}を発表しているが、富士塚の方はそのままになっていたのでその後の調査を加えて本稿を書いた次第である。

Ⅱ. 分布, 地形, 存在形態, 方位

江戸(東京)から波及していったと見るべく、都内(23区、多摩地区)と埼玉県では広く各地に分布するが、他の県では東京よりの地域に多い。神奈川県では東部、千葉県では西部、北関東3県では南部である。関東以外の事例は管見に入っていない。恐らくは存在しないのだろう。富士山の地元静岡・山梨両県に見られないことは特に注意すべき点である。

新しく塚を作って富士塚にするのが普通だが古墳等既存の塚を流用したものもある。台地・丘陵等高くなっている自然の地形をこれに充てているものもある。目黒区大橋2丁目の氷川神社境内の事例(目黒富士)では境内全体が台地で高くなっているのでここに「富士山頂」の標石を立て、麓には「目黒富士登山口」の標石を立てている。また氷川神社の参道とは別に登山路を設け、これに沿って合目標石を立てている。

神社境内に富士塚を築き、その浅間社は神社の末社になっているのがもっとも多い形である。少数だが寺院境内の場合もある。小石川の護国寺、江戸川区平井の安養寺、同区雷の真藏院がそれで、いずれも真言宗である。

社寺境内でなく独立に存在するものも少なくない。近くないのに他の神社の境外末社になっているものもある。一方神職の常勤する程度の本格的な神社になっているものもある。横浜市浅間町の浅間神社、江戸川区篠崎の浅間神社、大田区田園調布の玉川浅間神社、千葉市の稲毛浅間神社等で、稲毛浅間神社は特に規模が大きく、初詣や七・五・三の折には多数の参詣者でにぎわう。

公園内等に位置する事例は少ない。八王子では富士森公園内に浅間神社があるが同社を中心に公園化したものでその名も富士森公園である。他に立川には富士塚公園があり、横浜市都筑区に山田富士塚公園がある。

新しいタイプのものとして三鷹市中原の中嶋神社境内にはコンクリートで作った富士塚がある。

小口千明は家相を地理学的に研究し、一部の地方で家を富士山に向けて建てるのがよいとされ「富士向き」といつていることに注目した。関連して富士塚の方位に着目し、都内の代表的富士塚である駒込富士、十条富士が富士向きでないことから「頂上に祀られる祠を富士向きとすることは行われなかった¹⁰⁾」と述べている。

改めて各地の富士塚の方位を検討してみると多くの富士塚は小口の指摘のように富士向きにはなっていない。しかし富士向きが皆無なわけではなく、江東区亀戸の浅間神社(移建する前の状態)と千葉市の稲毛浅間神社は富士向きになっている。神職の談によれば偶然そうになったのではなく意識的に富士に向くように作られたという。稲毛の場合、埋立工事をする前、境内から東京湾をへだてた富士山の眺望はすばらしかったとのことである。

二つの事例は共に富士塚の浅間社の正面に富士山がある。浅間社に参拝する人は富士山に背中を向け、富士山を遥拝すれば浅間社を背にすることになる。これに対し富士吉田の浅間神社においては富士山を背にして、拝殿・本殿、富士山が一線上になる。この神社に参拝すれば富士山自体を拝むことにな

る。同じように富士山を信仰対象にしながらか富士山麓に住む人と100kmをへだてて富士山を遠望する人が正反対の対応をしているわけである。

Ⅲ. 奥宮, 里宮, 小御岳

富士山では山頂と山麓, 特に登山口に浅間神社を祀っている。これを模した富士塚でも山頂または山麓に祀っている。現地で存否を確認し得た山頂の宮(奥宮), 麓の宮(里宮)は次の通りである。奥宮のみが74ヶ所(74.7%), 両者ともあるのが20ヶ所(20.2%), 里宮のみは少数である。大部分は小祠であるが石碑の場合が15ヶ所ある。いずれも奥宮のみで里宮をもたない場合である。石碑の方が簡略化したものと見てよかろう。碑文は「浅間大神」が多く、「富士大権現」というものもある(杉戸の場合)が祭神である「木花開耶媛命」というのはない。また山頂に神像を立てたのが2例¹¹⁾ある。

富士山の5合目, スバルラインの終点には小御岳神社がある。祭神は富士山の祭神の姉, 磐長姫で長寿の神とされている。富士塚に小御岳を祀ったのが43ヶ所を数える。中腹に立地するのが多い。小祠のも石碑もあるが碑文は小御岳で磐長姫ではない。神名を記すのは控えるべきだとの考えがあったのだろうか。

草加市谷塚の浅間神社は社殿自体が人工の高台にあって一つの富士塚と見なせるが, 別に社殿背後に離れてもう一つ富士塚がある。その頂上にあるのは小御岳である。

品川神社境内の品川富士の場合, 山頂に近く小御岳はあるが山頂は空地で里宮のみ。山頂は富士講の人達が富士山を遥拝する所になっている。

Ⅳ. 富士山になぞらえた地物

富士山を模した富士塚において富士山を思わせる地物が設けられる。以下のような物がある。

(A) 溶岩

富士山より取り寄せた溶岩で黒ボクと呼ばれ各地の富士塚に見られる。広く全面をおおうものから一部にとどまるものまで区々である。富士塚には当然あるものと思っている人が多いが全部の富士塚にあるわけではない。既訪の富士塚で溶岩の見られないのは次の通りである。多摩地区7ヶ所, 埼玉県7ヶ所, 神奈川県4ヶ所, 北関東4ヶ所。一方23区内と千葉県の富士塚は全部に溶岩が見られる。江戸(東京)にはじまり周辺に波及して行く過程で省略されるようになったのであろう。

溶岩のない富士塚の中には清瀬市中里の富士塚や川口市木曾呂富士塚のように有力なものもあり, 溶岩の有無は規模の大小によるものではない。木曾呂富士塚に隣接して見沼代用水があり, 春日部市の浜川戸富士塚から古利根川は近い。いずれも近世から明治期に水運のさかんだった川で溶岩の有無が輸送の便否によるとは考え難い。

富士塚に溶岩をつむには専門の職人がいたとのことである¹²⁾。

(B) 富士五湖

武蔵野市境南町の杵築大社の境内には三つの池があり, 富士五湖になぞらえて山中湖, 河口湖, 西湖と呼ばれた。西湖は早く失われ, 山中湖も近年埋め立てられて駐車場となり, 河口湖だけが残っている。河口湖は富士塚に隣接する。

(C) 合目標石

富士山に模して何合目の標石を建てたものである。存否を確認し得た102ヶ所中存在するのは31ヶ所

(30.4%)である。

(D) その他

噴火口、御中道、宝永山、御胎内等を設けたものがある。川越市富士見の浅間神社や竜ヶ崎市八代の富士神社、横浜市都筑区の山田富士に噴火口になぞらえた穴が作られている。志木市の田子山富士には宝永山と御胎内があり、松戸市小山の浅間神社には宝永山と御中道がある。

稲毛浅間神社には3本の参道があるが、富士山の3本の登山道（吉田口、須走口、大宮口）にならったものという。

V. 入山の可否

富士塚に入り、頂上まで登れるかどうかである。大部分の富士塚は入山自由であるが禁止されているものもある。既訪の事例では都区内19、埼玉県内1、神奈川県内1で多摩地区と他県には1例もない。元々下から見上げて礼拝するもので登れない構造のものもある¹³⁾が、柵をめぐらし施錠して入山できないようにしているものが多い。入山禁止の所で神職に理由を聞いたところ、「子供が富士塚で遊んでいて怪我をしたりすると管理責任を問われる」とのことであった。

期日を限って入山を認めている事例を5例あげる。

- (A) 小野照崎神社（台東区下谷）、山開きの日（6月30日、7月1日）のみ入山可。
- (B) 成子天神社（新宿区西新宿）、正月初詣の期間のみ入山可。
- (C) 鶴見神社（横浜市鶴見区）毎月1日、15日入山可。
- (D) 茅原浅間神社（練馬区江古田）、1月1、2日、7月1日、9月第2土日曜日のみ入山可。
- (E) 白山神社（文京区白山）、あじさい祭の期間のみ入山可。ここでは富士塚一面にあじさいを植え、あじさい祭の折は多数の花見客でにぎわう。上記の4例では期間限定であっても富士塚の浅間神社の参詣者のために入山を認めているのだが、ここでは入山者は花見客で富士塚も浅間社も関心外である。講は既になく、山開きも行なわれていない。

VI. 講、講碑

富士講の衰退傾向は多くの方が指摘するところであるが実際の程度であろうか。既訪の富士塚で講の存否を確認し得た64例中現存するのは24例、37.5%にすぎない。現存する場合についても変容が目立つ。富士登拝が徒歩から鉄道利用になり、更に今ではバスで5合目まで行けて東京から日帰りも可能になった。元は代参講だったのが今は希望者全員参加、日帰りの講もあるが帰途箱根か伊豆の温泉へ行って宿泊する講もある。富士吉田には昔ながらに富士講を迎える御師もあるが宿泊でなく中食。信仰色が薄れて観光旅行的になってきているがそれすら実施できず正月の初拝みと後述の山開きのみというものもある。白い行衣は持つ人も着れる人もわずかになり、ほとんど洋服になった。「七富士詣り」といって7ヶ所の富士塚を巡訪する行事は今もやっているところがある¹⁴⁾。

講がなくなっても富士塚が放置荒廃になってはいない。神社境内に末社になっているものはその神社の神職によって祭祀が続けられる。

独立の神社になっている場合どの神社でも行っている行事や祈祷を行い、富士を意識しない一般の崇敬者、参拝者を得て地域の神社として存続している。この点、市が立たなくなった所で地域の神社として存続する市神¹⁵⁾と同傾向である。江戸川区篠崎の浅間神社は幼稚園も経営している。

富士講の人が立てた講碑が多少にかかわらず現存するのは既訪の富士塚103ヶ所中86ヶ所（83.5%）に達する。講は消滅しても講碑はそのまま存置されている所が大部分である。また富士塚がなく浅間神社でもない神社境内で講碑を見ることがある。流山市立博物館の報告書¹⁶⁾によれば同市内で富士塚以外にある富士講の碑が17基あり、その内12基は神社境内にある。講はあるが富士塚を作るに至らなかった場合であろう。

高尾山にも富士講の碑がある。十一丁目茶屋前にあり、下谷十行講が建てたもの、これより蛇滝まで八町と記され高尾山内の案内を兼ねる。基部のそばには富士山の溶岩がある。高尾山に寄ってから富士吉田に向うのが富士登拝の普通のコースだった¹⁷⁾というからその関係で立てられたものであろう。

草加市谷塚の浅間神社には多数の講碑があるがその内の1基は富士吉田の御師大番城家の庭内にあったもの、同家側に事情¹⁸⁾があって1990年に地元に移建したという。

講碑にせよ溶岩にせよ重量貨物をどのように輸送したか興味をもたれるがその問題を扱った論考にも関連資料にも接していない。富士関係ではないが梵鐘と石碑を江戸から青梅に運んだ事例を研究した北村和寛の論文¹⁹⁾が参考になる。牛車を扱う車力が陸送し、一部新河岸川水運を利用したという。講碑の輸送も似たような方法だったのかと思われる。

Ⅶ. 山開き、初山

富士山の場合に準じて山開きと称して主たる祭日に行っている所が多い。既に廃止している所やお供え物をする程度の所もあるが特別の神事が行われ、多数の参詣者があり、露店が並ぶ所もある。その期日には①6月1日、②7月1日、③その他がある。①と②は新暦か月おくれかで前日からの所もある。大部分は②で足利と館林は①、③の内川越の富士見町の浅間社は7月13日である。ここでは富士山の山開きに行った行者がもどってくる日と言っている。清瀬市の中里富士と川越市新宿町氷川神社境内の浅間社は9月1日である。どちらも富士吉田の浅間神社の火祭りを模したものである（富士吉田では8月26、27日）。

新宿区早稲田の水稲荷神社境内のは高田富士祭りと称して7月23～25日に行ってきたがそれに近い土、日曜に変更した。武蔵野市境の杵築大社の富士講祭は7月中旬の日曜に行っている。いずれも勤め人が多くなった状況に合わせての対応である。講が存続していても勤務の都合で参加できないといった問題は当然出てきているものと思われる。しかし永い歴史伝統ある行事なので日曜に変更した例は少数である。

東京での代表的な富士塚である十条富士と駒込富士の山開きを2002年6月30日に見学した。多数の参詣者があり、十条では小学生が多かった。頒布物としてお守り、おふだのほかワラ細工の蛇があり、駒込では落雁がある。多数の露店が出店していた。世話人である講中の人の服装は十条では洋服だが駒込ではゆかた、2004年に再訪したら十条でもゆかた姿になっていた。

「初山」というのは浅間神社の山開きにいわゆる「お宮参り」が合体したものである。最近1年間に生れた子どものすこやかな成長を祈願する行事であるが、普通のお宮参りならばどの神社でもよく期日の特定もないのに対し初山の場合は浅間神社に限り、山開きの日に行われている。祭神が火を掛けた産屋で安産したとの神話から安産の神になり、更に子育ての神になったわけである。全国の浅間神社の中心的存在である富士宮市の浅間神社では祭神の神徳として安産はあげられているが子育てはない。伝播して行く過程で追加されたのであろう。

初山は東京都内には存在しない。富士信仰研究の多くは江戸（東京）中心なので初山が取り上げられ

ることは少ない。埼玉県在住の民俗学者中嶋信彰の論考「初山の研究」²⁰⁾が詳細である。

それによれば初山の分布地域は埼玉県が主で栃木、群馬両県に及んでいる。埼玉県でも東京都に近い南部の地域には存在しない。岩槻一大宮―川越の線が南限である。またこの論文には述べられていないが茨城県の竜ヶ崎市に存在することを知った。

子供のひたいまたは着衣に神印を押すのでベタンコ祭という所もある。足利富士浅間神社では奥宮と里宮とあり、男児は奥宮、女児は里宮に詣でることにしている。当才児以外の幼児でもよいとしている所もある。安産は今後という新婚夫婦の参拝する所もある。

岩槻・川越・上尾・大宮・春日部・足利・館林のを実見した。岩槻・川越・館林・足利では多数の参詣者に露店も多く出て盛大であった。上尾と大宮は富士塚は小さいのだがそれでも相当数の参詣者があつた。足利では富士講が初山講とよばれるようになっている。頒布物は各地でうちわで元気に遊ぶ子供が描かれている。足利ではワラ細工の蛇も頒布物になっている。

初山と呼ばれず神印を押すこともないが千葉市稲毛の浅間神社では7月15日の大祭を安産子育て大祭と称し、最近1年間に生れた子供を連れた参詣者が多い。ここでは子育ての笹というのを頒布している。

Ⅷ. 信仰内容の追加, 他の講との関係

本来の信仰とは異質の信仰が加わった事例として市神の信仰に市にも商業にも無関係の女性の幸福の為の神との信仰が加わった事例をさきに報告した²¹⁾。

富士塚の浅間神社に本来の富士信仰とは別種の信仰が加わった事例を示す。新宿の花園神社境内のもので芸能の神という面が加わった。「芸能浅間神社」と記した石杭が建っていて、建てたのは八代垂紀である。まわりの柵には数十人の芸能人の名が記されていてその方面の人達の信仰対象になっている事を知ることができる。新宿コマ劇場に近く、そこへの出演が関係していると思われる。

別の信仰の附加の実例として富士ではないが雷電神社の場合をあげる。埼玉県と群馬県に多く見られる神社である。本来は落雷を恐れ、また雨乞の神との信仰であった。各地の雷電神社の中心的存在の群馬県板倉町の場合、御祈祷依頼者の筆頭は東京電力であり電気工業者が名を連ねる。感電を恐れてのことであり、雷より電に重点が移ったと見ることができる²²⁾。

足立区足立3丁目の西之宮稲荷神社の富士塚に富士講のほか出羽三山と大山の講碑がある。ここでは富士。出羽三山・大山の講がいずれも健在であり、その構成員の多くは共通している。塚を作る習慣のない出羽三山と大山の講碑も富士塚に立てたわけである。出羽三山の講碑は北区の十条富士にもある²³⁾。

北区田端の田端八幡神社には富士塚があり、三峰神社の小祠もある。富士講と三峰講は構成員の多くが共通するので1962年に合併した²⁴⁾。

講碑ではないが杉戸では富士塚に芭蕉の句碑がある。日光街道を主題とするガイドブック²⁵⁾に句碑を紹介しているが富士塚については言及していない。

Ⅸ. おわりに

以上述べた富士塚に別稿²⁶⁾で述べた市神を比較してまとめに代えることにする。富士塚と市神は特に関係はない。筆者がたまたま同じ頃両方に関心を持ち同時平行に調査してきただけである。しかし両者を比較することによって双方の特質がうかびあがってくることを考える。

(1) 富士塚を作った富士信仰、富士講は教義、組織があり、教祖というべき人物がおり、経典に相当

するお伝えというものもある。宗教としての条件が揃っており、一つの宗教と見るべきであろう。

市神の方は定期市、市場町の繁栄と平和を祈願して関係者が適宜の神を祀ったもの。教義も經典もなく世話人はいるが宗教上の指導者はいない。講があるのは例外的である²⁷⁾。一つの宗教と見ることはできない。

従って富士塚は浅間神社で祭神は木花開耶媛命と一定している²⁸⁾が、市神の方はエビス、大市姫命、牛頭天王等種々である。

(2) もよりの社寺境内に立地し、その神社の末社になっている事例が多い。この点は両者共通している。

(3) 富士信仰の衰微、富士講の解散、定期市の廃止等マイナス要因が多い。にもかかわらず富士塚も市神も多くは健在である。存続要因として(イ)末社になっている場合本社の神職により祭祀が続けられる。(ロ)独立社の場合、本来の趣旨とは別に一般の神社、地域の神として存続しているの2点をあげる。また本来のとは別種の信仰が加わった場合もある。

(4) 分布地域は富士塚は関東に限定されるが市神は全国的である。

富士塚の調査に当り各地で多くの方から御教示や資料の提供等の御好意を頂いた。厚く御礼申し上げます。

本稿の概要を2007年12月8日、国史学会例会(於国学院大学)で報告した。

注および参考文献

- 1) 三浦家吉(1975): 滅びゆく富士講と富士塚(甲文堂出版部)
- 2) 川合泰代(2001): 富士講からみた聖地富士山の風景(地理学評論74~6)
- 3) 川合泰代(2004): 聖なる風景の復原方法について一試論(歴史地理学46~1)
- 4) 赤石光資(2001): 国指定(重要有形民俗文化財)の富士塚の紹介(埼玉民俗26)
- 5) 北区教育委員会(1991): 十条富士調査報告書(同会)
同会(1995): 田端富士三峰講調査報告書(同会)
志木市教育委員会(1996): 調査報告書, 田子山富士(同会)
- 6) 文京区ふるさと歴史館(1995): 特別展図録, 江戸の新興宗教, 文京の富士講(文京区教育委員会)
- 7) 下記に多くの事例が紹介されている。
赤石光資(1980): 埼玉県内の富士(浅間)塚, 浅間神社(埼玉民俗10)
船水康宏(2000): 群馬県の富士塚(富士信仰研究1)
藤井宏康(2000): 茨城県の富士塚見てあるき(同上)
船水康宏・藤井宏康(2001): 栃木県の富士塚(同誌2)
- 8) 中島義一(2004): 市神考(駒沢地理40)
- 9) 中島義一(2005): 市と市神(利根川文化研究27)
- 10) 小口千明(2002): 日本人の相対的環境観(古今書院)
- 11) 新宿区成子天神社境内の富士塚, 横浜市保土ヶ谷区西谷所在の富士塚。
- 12) 鶴見神社宮司金子元重氏談。
- 13) 一例として新宿区西大久保の鬼王神社の場合をあげる。元は普通の富士塚だったが移建するに当りスペースの関係で小型の富士塚を二つ作り, 五合目以上と以下に当てた。両者の間を参道にしている, ここは頂上に登るといふ構造にはなっていない。
- 14) 足立区柳原稲荷神社宮司神尾泰三氏談。
- 15) 中島義一(2004): 市神考(駒沢地理40)

- 16) 流山市立博物館 (1987), 流山の石仏 (同館)
- 17) 青柳周一 (1994): 富士講と交通 (交通史研究33)
- 18) 事情については下記に述べられている。
岡田 博 (2004): 鳩ヶ谷宛岩科小一郎先生書翰再読, その3 (富士信仰研究5)
- 19) 北村和寛 (2001): 江戸から青梅街道の物資搬送 (交通史研究47)
- 20) 中嶋信彰 (1998): 初山の研究 (埼玉民俗23)
- 21) 中島義一 (2004): 市神考 (駒沢地理40)
- 22) このことを歴史地理学会のシンポジウム「宗教文化の歴史地理学」(2004)の際の松井圭介報告への質問の中で述べた。それについて小田匡保は座長所見の中で「現代の信仰圏ならば企業の信仰活動をも研究する必要がある」とし、鈴木正崇はシンポジウム総合コメントの中で「雷神信仰に東京電力が関わるなど現代的テーマも入れて動態化すべきである」と述べている。
小田匡保 (2005): 松井報告についての座長所見 (歴史地理学47~1)
鈴木正崇 (2005): 総合コメント2 (歴史地理学47~1)
- 23) 北区教育委員会 (1991): 十条富士調査報告書 (同会)
- 24) 北区教育委員会 (1995): 田端富士三峰講調査報告書 (同会)
- 25) 大高利一郎 (1999): 日光街道 (のんぶる社)
- 26) 中島義一 (2004): 市神考 (駒沢地理40)
- 27) 伊勢市山田八日市場の伊勢上座蛭子神社の講が唯一の例外であろう。
- 28) 富士山 (浅間神社)の祭神が木花開耶媛命というのは当初からではないとして議論があるが本稿で扱っているのは現在の状況なので同神に一定としておく。

表1 既訪の富士塚 23区の東半

所	区	境内	溶岩	奥宮	里宮	小御岳	鳥居	合目	講碑	地形	入山	山開き	講
千住	足立	千住神社	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	○
五反野	〃	西宮稲荷	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○
南千住	荒川	素戔雄神社	○	○	○	×	○	×	○	○	×	×	×
入谷	台東	小野照崎神社	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○
柳原	足立	柳原稲荷	○	○	×	×	○	×	○	○	×	○	○
小岩	江戸川	小岩神社	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○	×
瑞江	〃	豊田神社	○	○	×	○	×	×	○	○	○	-	-
篠崎	〃	◎	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○
逆井	〃	◎	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○	×
平井	〃	諏訪神社	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○
大川	足立	氷川神社	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	-
綾瀬	〃	稲荷神社	○	○	×	○	×	○	○	○	×	-	-
立石	葛飾	熊野神社	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○
金町	〃	葛西神社	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	×
亀戸	江東	◎	○	○	×	○	○	×	○	○	×	○	×
平井	江戸川	安養寺	○	○	×	×	×	×	○	○	×	○	×
上鎌田	〃	天祖神社	○	○	×	×	×	×	○	○	○	-	-
中割	〃	〃	○	○	×	○	○	×	○	○	○	-	-
雷	〃	眞藏院	○	○	×	○	○	×	○	○	○	×	×
長島	〃	香取神社	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○	-
桑川	〃	桑川神社	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×	×
砂町	江東	元八幡社	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯塚	葛飾	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	-	-
船堀	江戸川	日枝神社	○	○	×	○	×	×	○	○	○	×	×
今井	〃	香取神社	○	○	×	×	×	×	○	○	○	-	-
浅草	台東	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○	○	-
保木間	足立	氷川神社	○	○	×	×	○	×	○	○	○	-	-
花畑	〃	空地	○	○	×	×	○	×	○	○	○	-	-
梅島	〃	小右衛門稲荷	○	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×
深川	江東	深川八幡	○	○	○	×	×	×	○	○	×	○	×

表2 既訪の富士塚 23区の西半 多摩地区

所	区・市	境内	溶岩	奥宮	里宮	小御岳	鳥居	合目	講碑	地形	入山	山開き	講
十条	北	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○
板橋	板橋	氷川神社	○	○	×	×	×	×	○	○	○	-	-
田端	北	田端八幡神社	○	○	×	×	○	×	○	×	○	×	○
北町	練馬	氷川神社	○	○	×	×	×	×	○	×	○	-	-
下練馬	〃	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	-	-
江古田	〃	◎	○	○	×	○	○	×	○	○	×	-	-
白山	文京	白山神社	○	○	×	×	○	×	○	○	×	×	×
音羽	〃	護国寺	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×
駒込	〃	◎	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○
池袋	豊島	氷川神社	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	×
早稲田	新宿	水稻荷神社	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×
大久保	〃	西向天神社	○	○	×	○	×	×	○	○	×	×	×
西大久保	〃	鬼王神社	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×
成子	〃	成子天神社	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	×
新宿	〃	花園神社	○	○	×	×	○	×	○	○	○	×	×
千駄谷	渋谷	鳩森八幡神社	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	-
善福寺	杉並	井草八幡神社	-	-	○	-	-	-	×	○	×	×	×
鉄砲洲	中央	鉄砲洲稻荷	○	○	×	×	○	×	○	○	×	○	×
品川	品川	品川神社	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
上目黒	目黒	氷川神社	○	○	×	×	○	○	○	×	○	○	×
大崎	品川	居木神社	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
羽田	大田	羽田神社	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×	×
丸子	〃	◎	○	○	×	○	○	×	○	×	○	○	×
落合	新宿	月見岡八幡	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×
上赤塚	板橋	氷川神社	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
大門	〃	諏訪神社	○	○	○	×	○	×	○	○	○	-	-
中原	三鷹	中嶋神社	×	○	×	×	○	×	×	○	○	-	-
境	武蔵野	杵築大社	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
中里	清瀬	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
下里	〃	○	×	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
八王子	八王子	富士森公園	○	○	○	×	○	×	×	○	○	-	×
深大寺	調布	○	×	○	○	×	×	×	○	○	○	-	-
富士見町	立川	富士塚公園	×	○	×	×	○	×	×	○	○	-	-
東村山	東村山	空地	×	○	×	×	×	×	×	○	○	-	-
久米川	〃	熊野神社	×	○	×	×	×	×	○	○	○	-	-

表3 既訪の富士塚 神奈川県・千葉県

所	区・市	境内	溶岩	奥宮	里宮	小御岳	鳥居	合目	講碑	地形	入山	山開き	講
鶴見	鶴見	鶴見神社	○	○	×	×	○	×	○	○	×	○	×
登戸	多摩	○	×	○	×	×	○	×	×	○	○	-	-
西谷	保土谷	○	○	×	○	×	○	×	○	○	○	-	-
山田	都筑	山田富士公園	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×
池辺町	〃	空地	×	○	×	×	○	×	×	○	○	×	×
浅間町	西	◎	×	○	×	○	○	×	○	×	○	○	×
八幡	市川	葛飾八幡	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	×
鬼越	〃	神明社	○	○	×	×	○	×	○	○	○	-	-
浦安	浦安	清滝神社	○	○	×	×	○	×	○	○	○	×	×
〃	〃	豊受神社	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×	×
当代島	〃	稻荷神社	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○
稲毛	千葉	◎	○	○	×	○	○	×	○	×	○	○	○
松戸	松戸	松戸神社	○	○	×	○	×	×	○	○	○	×	-
小山	〃	◎	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○
行徳	市川	八幡神社	○	○	×	○	○	×	○	○	○	-	-
流山	流山	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	×
西深井	〃	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	-	-
運河	〃	駒形神社	○	○	×	×	×	×	○	○	○	-	-
根本	松戸	金山神社	○	○	×	○	○	×	○	×	○	-	-

表4 既訪の富士塚 埼玉県・北関東

所	市・町	境内	溶岩	奥宮	里宮	小御岳	鳥居	合目	講碑	地形	入山	山開き	講
本町	志木	敷島神社	○	○	○	○	×	○	○	○	×	—	—
杉戸	杉戸	○	○	○	×	○	×	×	○	○	○	○	×
谷塚	草加	◎	○	○	×	○	○	×	○	○	○	—	○
浜川戸	春日部	八幡神社	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○(初山)	—
富士見町	川越	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○(初山)	×
新宿	ヶ	氷川神社	○	○	×	○	○	○	○	○	○	—	—
郭町	ヶ	○	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○(初山)	—
府内	岩槻	◎	×	○	×	○	○	×	×	×	○	○(初山)	×
上尾	上尾	氷川嶽神社	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○(初山)	×
川口	川口	川口神社	×	○	○	×	×	×	○	○	○	×	×
大宮	さいたま	○	×	○	×	×	○	×	×	○	○	○(初山)	×
青木	川口	氷川神社	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
新倉	和光	氷川八幡神社	○	○	×	×	○	×	○	○	○	×	×
仲町	越谷	○	×	○	×	×	○	×	×	○	○	—	—
木曾呂	川口	○	×	×	○	○	○	×	○	○	○	—	—
富士原	館林	◎	×	○	×	×	○	○	○	×	○	○(初山)	×
田中町	足利	◎	×	○	○	×	○	○	○	×	○	○(初山)	○
八代	竜ヶ崎	◎	×	○	○	—	○	×	×	×	○	○(初山)	—
南	牛久	○	×	○	×	×	○	×	×	×	○	—	—

表1～4の注

- (1) 境内の項、社寺境内にある場合は社寺名、公園内にある場合は公園名、独立社の場合、本格的な神社は◎、小規模なものは○、空地の場合は空地。
- (2) 山頂の浅間社（奥宮）、里宮、小御岳、溶岩、鳥居、合目標石、講碑、山開き（初山）、講の各項、あれば○、なければ×、未確認または確認不能の場合は—、入山自由の場合は○、不可の場合は×。
- (3) 地形の項、人工の塚等（古墳をふくむ）は○、自然の地形（台地、丘陵等）は×

〔附〕「市神考」補訂

先年発表した「市神考」（駒沢地理40, 2004）に削除訂正を要する箇所があり、その後の調査で増補したい事項もあるので以下に附記する。

削除・訂正

P3, 11行, 山形県（あるいは東北の他県も）の特色と見てよからう。

P5, 4行, 山形県以外の東北各地も同傾向ではなからうか。

以上下線部を削除。

(誤) (正)

P7, 下から3行 東北 山形県

P10, 24行 東北 山形県

P10, 25行 東北 山形県

長井論文で知り得た山形県の状況を東北他県も同様かとみたのだが後述する会津の例のように各地で状況を異にするわけで上記のように削除訂正する。

増補

その後の調査で知り得た事項を3点追補する。

- ①熊谷では初市の日（2月7日）普段は附近の神社内に祀られている市神を運び出し、市の現場に設けた仮小屋に祀る。その日はダルマ市であり、そこで買ったダルマを持参すると神職がダルマに目を入れ、お札をつけて返す。「熊谷総鎮守愛宕神社撰社大市神、諸災消除家門繁栄、祈祷爾」と書かれている。謝礼は志だが1000円程度が普通のようなのである。
- ②会津若松と喜多方では普段は前者は田中稲荷神社、後者は北宮諏方神社内に祀られている市神を初市の日（若松は1月10日、喜多方は12日）、市の現場に設けた仮小屋に祀る。市では海のものでも山のものでも売るという意味で両地とも海の神として住吉、山の神として春日の神を市神にしている。住吉はまさに海の神であるが、春日は一般に山の神にしているが会津ではこうなっている。御神体はどちらも神像で若松では春日は老年、住吉は若年の像である。また奈良の春日大社の祭神は武甕槌命・経津主命・天児屋根命・比売神、大阪の住吉大社の祭神は底筒男命・中筒男命・表筒男命といずれも単独ではなく春日では女神もふくまれているが、若松と喜多方では春日大神、住吉大神と単一の男神になっている。
- 会津には若松と喜多方以外にも数ヶ所、初市が開かれ、市神があるが未訪未調査である。若松と喜多方については北宮諏方神社宮司大森嗣久氏の御教示と笹川寿夫氏の御教示と著書に負う所が多い。（笹川寿夫：会津の神社、歴史春秋出版、1995）
- ③津市岩田に大市神社というのがある。社名からみて市神と思い訪ねてみた。同社が出した大市神社略記には市神としての事項は全く書かれていない。祭神が大市比売命であるし市神だったのがいつの頃からか神社の性格が変わったのかと推察している。しかし宮司の談によると市神だったとの記録も伝承もないとのことで想像の域を出ない。

